大規模さつまいも栽培で地域雇用の創出を

名　称：農業生産法人（株）しろはとファーム福島支店（責任者　内田（うちだ）　政樹（まさき））

所在地：双葉郡楢葉町

【楢葉町の避難指示解除状況】

・平成 27 年 9 月 5 日　避難指示解除準備区域が解除

【プロフィール】

平成 30 年 1 月、農業生産法人（株）しろはとファームの支店として設立し、加工用さつまいもの栽培を開始。平成 32 年に 50ha 規模の作付を目指す。

【設立の経緯】

楢葉町は住民の帰還を促進するため、新しい農業の創出が必要と考え、販売先が確保され、農家の安定収入に繋がる作物を模索。さつまいもは、①比較的、手間がかからない、②加工して付加価値の高い商品化が可能、③契約栽培で安定収入が期待できることに着目。

一方、宮崎県都城市で、主にさつまいもを栽培している農業生産法人（株）しろはとファーム（以下、「しろはとファーム」という。）は、栽培地域の拡大と新しい産地の開拓を検討する中、福島県の復興支援にも資することから、楢葉町内でのさつまいも栽培に取り組むことになりました。

平成 29 年、楢葉町が町内での栽培適性や収益性を検討するため、農家 3 戸に依頼し、1.5ha でさつまいもの実証栽培を開始。町単独予算「いきいきアグリ復興基金」を活用して、苗代・肥料代を助成するとともに、しろはとファームが栽培指導して約 10 ﾄﾝを収穫しました。

実証栽培では、目標収量に達しなかったものの、町内での栽培の見通しが立ったことから、しろはとファームは、平成 30 年 1 月、「農業生産法人（株）しろはとファーム福島支店」（以下、「しろはとファーム福島」という。）を設立し、楢葉町内で本格的にさつまいも栽培に取り組むことになりました。

収穫作業中に手を休めていただきました。
左端が内田政樹さん

【取組の内容】

しろはとファーム福島は、全国の農園部から正社員 3 名と、楢葉町内出身研修生 1 名、町内及び近隣市町村のパ

ート従業員 5 名によりスタート。町の協力を得て、町内被災農家 12 戸から約 11ha の農地を借りて、さつまいもほ場を確保し、栽培管理に必要な機械は、福島県営農再開支援事業を活用してリースにより整備しています。主な機械は、トラクター4 台、プラウ 1 台、プラソイラ 1 台、ブロードキャスター 2 台、つる刈機 2 台、つる剥ぎ機 2 台、収穫機 3 台等です。主な作業スケジュールは、1 月～5 月上旬「ほ場準備」、2 月上旬～5 月下旬「育苗（芽出し）」、4 月下旬～6 月上旬「定植」、9 月～10 月「収穫」となっています。

自走式さつまいも収穫機

平成 30 年は、比較的少雨で日照時間も長く、さつまいもに適した天候となったことから、生育は順調に推移。1 株当たり個数は 2～3 個と通常（4～5 個）より少ないものの、一個一個は大きなサイズになり、品質は良好となりました。単収 2 ﾄﾝ/10a、収穫量は 220ｔ程度を見込んでいます。今年は 3 品種を栽培していますが、品種毎の収穫量や品質の結果を踏まえ、今後、楢葉町に適した品種を選定する予定です。

収穫した加工用さつまいも

平成 30 年にも楢葉町内の農家がさつまいも栽培に取り組んでおり、しろはとファーム福島が町内で栽培技術が普及・定着するよう、防除のタイミングや収穫適期等をアドバイスしています。

今年、楢葉町でさつまいもを収穫した内田さんは、「楢葉町の気候は、予想以上にさつまいも栽培に適している。町役場、JA 福島さくら、東京電力福島復興本社を始め、多くの方々に協力して頂いたおかげで収穫までこぎ着けた。」と、支援してくれた関係機関に感謝していました。

【関係機関の支援】

町からは、農地の確保や福島県営農再開支援事業の活用について全面的な協力・支援を受けています。また、JA 福島さくらから一次集荷場として農業倉庫を借り受け、双葉農業普及所から鳥獣（イノシシ）対策や放射性物資簡易検査等について、指導・支援を受けています。

【課　題】

農家から借り受けた農地は、除染後、何年も作物を作付けしていなかったほ場が大部分のため、雑草が非常に多く、除草に大変苦労しています。刈払

い機、除草剤などで対応していますが、通常のほ場に戻るまで 2～3 年かかる見込みです。

来年以降も作付面積を拡大する計画であり、必要な農地を確保することが緊喫の課題です。引き続き、町の協力を得て、より大区画なほ場を長期に渡って借り受けたいと考えています。

また、作付面積の拡大に伴い、管理機械、集荷施設、育苗施設等の追加整備が必要になるため、町の協力を得ながら、各種事業を活用して整備する計画です。

収穫期等の繁忙期には、労働力が不足しており、町内外からのパート雇用やシルバー人材等も活用して人員確保に努めています。

【目標・将来構想】

さつまいもの作付面積は、平成 31 年に 30ha、平成 32 年には 50ha まで拡大することを目標にしており、目標単収は 3ｔ/10a として、平成 32 年に 1,500ｔの生産を目指しています。

今後、楢葉町内で、大規模なさつまいも栽培が実現すれば、地域の新たな雇用が生まれ、町民の帰還を後押しできます。さらに内田さんは、「楢葉町には、木戸川の鮭、サッカーＪビレッジ、天神岬温泉のほか、地元の人が気づいていない観光資源がたくさんある。」と言い、これらの資源とさつまいもを最大限活用することにより、「町に観光客が増え、新たな移住・定住者の増加にも繋がる。20 代・30 代の若い力で楢葉町を盛り上げることができれば、以前より魅力的なまちに発展するはず。」と、楢葉町の新たなまちづくりの可能性について期待を寄せていました。

（平成 30 年 10 月）